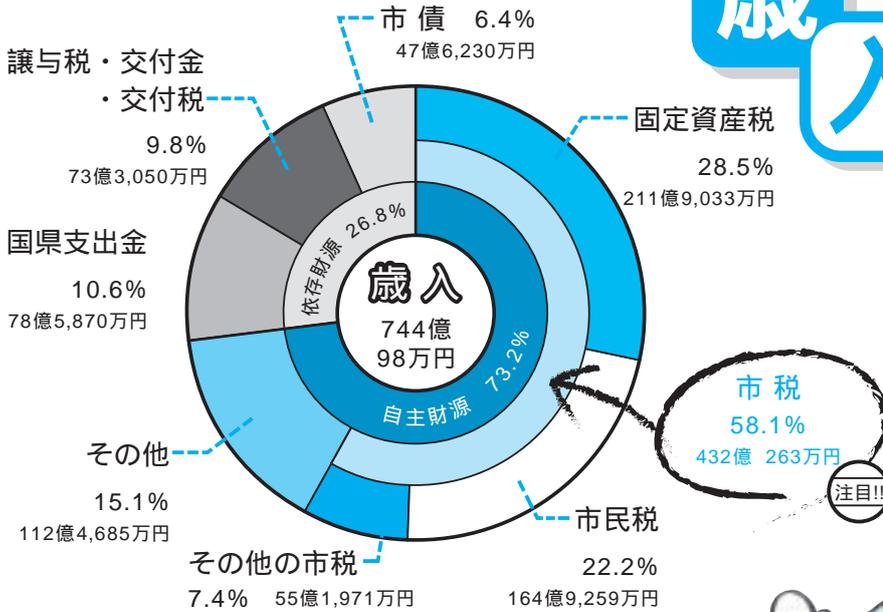


決算報告

富士市の財政事情

一般会計決算

歳入



注目!!

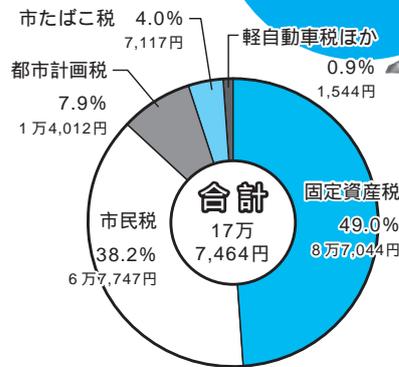
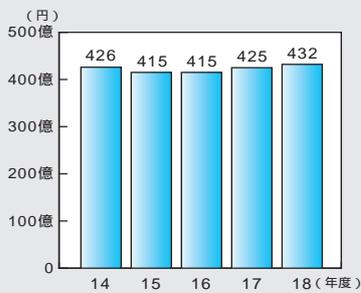
解説

～歳入の根幹をなすのは市税～

歳入の6割を占めるのは、市民や企業の皆さんから納めていただく市税です。平成18年度の市税の決算額は約432億円で、前年より約7億円の増加となりました。これは、税制改正による個人市民税と、企業収益の回復による法人市民税の増加が主な要因に挙げられます。

市税を市民1人あたりに換算すると...

過去5年間の市税収入の推移



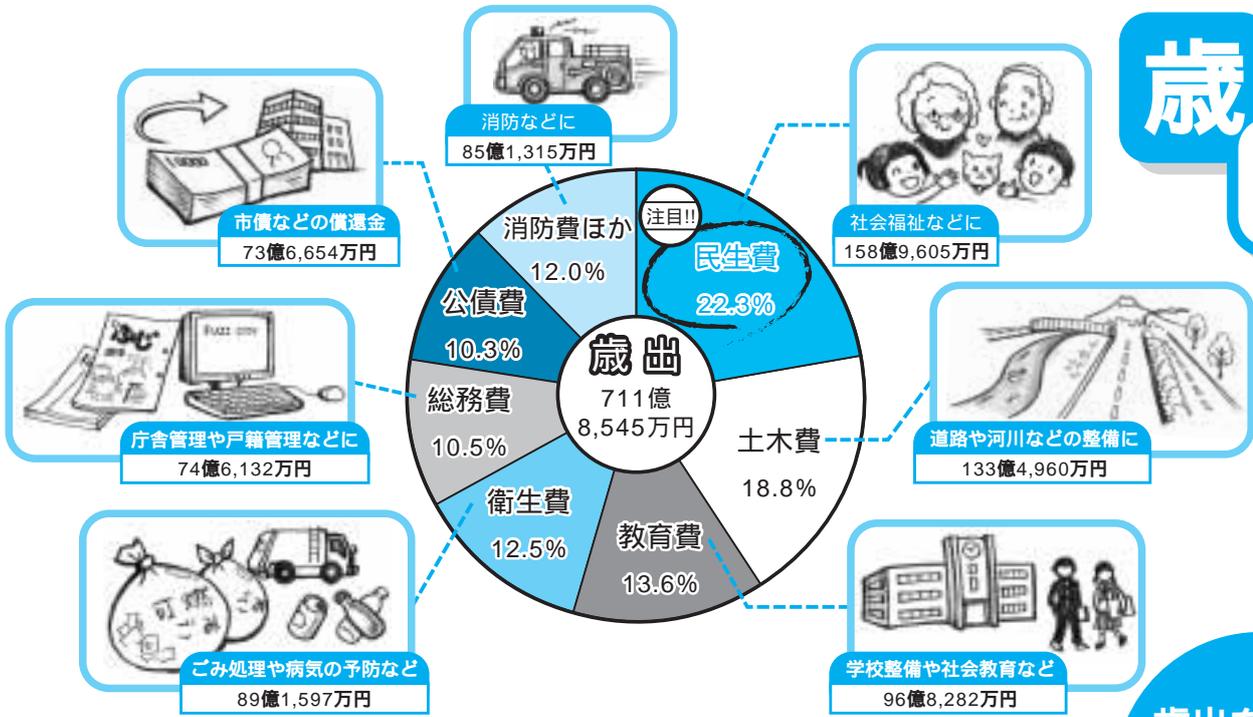
平成18年度の富士市の決算について報告します。
皆さんの納めた税金がこの1年間でどのように使われたかを確かめてみましょう。

用語の説明

- 歳入** 年度内に入ってきたお金。
- 歳出** 年度内に使ったお金。
- 自主財源** 市が独自で徴収することができるお金。市民税、固定資産税、使用料や手数料など。
- 依存財源** 市が独自に収入できる自主財源に対し、国や県などから入ってくるお金。国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲与税、自動車取得税交付金、市債など。
- 市債** 市が大きな建設事業などを行うため、国や銀行などから長期にわたって借りているお金。
- 国・県支出金** 特定の目的の財源として国や県から交付されるお金。
- 一般会計** 地方財政統計上、全国で統一して用いられる会計区分で、税収をベースとした行政活動を対象とする。富士市では、一般会計に新富士駅南地区土地区画整理事業特別会計、公共用地先行取得事業特別会計、墓園事業特別会計を加えたものを一般会計としている。

市民1人当たりの金額は、平成19年3月末現在の総人口(外国人を含む)24万3,445人をもとに計算してあります(8ページも同じ)。

歳出



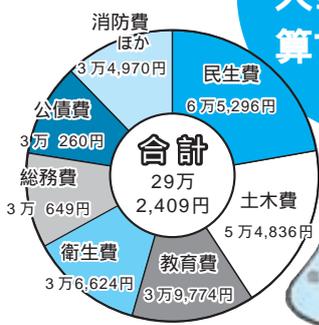
解説

～ 民生費が5年連続で歳出のトップ～

歳出を目的別に見ると、福祉関係の費用である民生費が22.3%を占め、5年連続で一番高くなっています。民生費は、本格的な少子高齢社会の到来を受け、今後も高水準で推移することが見込まれます。



歳出を市民1人当たりで換算すると...



特別会計決算

歳入 565億1,290万円
歳出 551億4,162万円

富士市には18の特別会計があります。ただし、表中では内山特別会計などの財産管理特別会計(全9会計)を省略しています。

| 特別会計名 | 歳入 | 歳出 |
|-----------------|-------------|-------------|
| 国民健康保険事業 | 204億8,188万円 | 197億4,832万円 |
| 老人保健医療事業 | 147億 171万円 | 146億7,553万円 |
| 介護保険事業 | 95億7,098万円 | 94億1,100万円 |
| 下水道事業 | 82億1,139万円 | 82億 20万円 |
| 新富士駅南地区土地区画整理事業 | 7億7,870万円 | 7億7,099万円 |
| 墓園事業 | 4億5,819万円 | 3億4,558万円 |
| 地方卸売市場事業 | 1億6,466万円 | 1億5,958万円 |
| 駐車場事業 | 9,600万円 | 9,598万円 |
| 公共用地先行取得事業 | 15億6,092万円 | 15億6,092万円 |

企業会計決算

水道事業

事業収益合計 27億5,105万円
事業費用合計 24億7,104万円
純利益 2億8,001万円

病院事業

事業収益合計 112億5,658万円
事業費用合計 117億1,377万円
純損失 4億5,719万円

富士市の財政状況は どうなっているのでしょうか？

～富士市財政の特色をお知らせします～

特色

～1～借入金の高・普通会計ベース
～市債現在高・普通会計ベース

市債は市の借入金で、将来にわたって利用される道路や学校などの整備資金を、将来の世代にも公平に負担してもらうためのものです。家計でいうと、ローンに当たります。

市は、平成9年度以降、大規模事業が一段落しています。現在は、新たな市債の発行額を抑制するとともに、繰り上げ償還や行財政改革による歳出削減など、各種施策を通じ、市債残高の圧縮に努めています。

平成18年度の市債残高は648億円で、昨年より約1・4%減少しました。

借入金は
年々減少
している!!

～市債残高の推移～



特色

～2～財政の弾力性（経常収支比率）

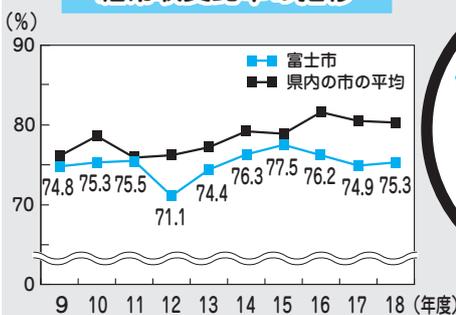
経常収支比率は、財政の構造の弾力性を判断するための指標です。

歳出の人件費や公債費などの毎年経常的に支出される経費が、市税などの毎年経常的に入ってくる収入に対して占める比率です。

この比率が高いほど財政が硬直して、新しい仕事に使えるお金が少ないことを意味します。一般的に、70～75%程度が適正水準で、80%を超える弾力性が失われつつあると言われています。富士市の平成18年度の数値は75・3%で、同規模の市と比べ、ゆとりがある財政力を持っていると言えます。

必要最低限の仕事
だけでなく、新しい
仕事をするゆとり
がある!!

～経常収支比率の推移～



詳しくは、市ホームページに掲載しています。

- 市債（借入金）の残高
- 経常収支比率（財政の弾力性）
- 財政力指数（財政の豊かさ）
- 普通会計バランスシート など



特色

～3～財政の豊かさ（財政力指数）

財政力指数は、財政の豊かさを示す指標です。国が定めた基準の必要行政経費額に対し、市税などの収入の見込み額がどれだけあるかを比率で示した数値です。数値が「1」を下回ると、不足分が国から普通交付税として交付されます。

普通交付税は、毎年、全国で95%程度の市町村が交付を受けています。富士市は、平成11年度と12年度を除き、不交付となっています。

国からの財政
支援は受けて
いません!!

～財政力指数（3年平均）の推移～



決算報告に関する問い合わせ

財政課 ☎55-2725 FAX51-1479

✉ zaisei@div.city.fuji.shizuoka.jp

🌐 <http://fujishi.jp/cityhall/zaisei-b/zaisei/>